様式２　　令和６年度水戸市研究指定校実施報告書

内原中学校区　学校運営協議会制度に関する研究

学校名　　内原中学校
鯉淵小学校　妻里小学校　内原小学校

研究主題　　地域とともにある学校づくり
～「学校運営協議会制度」の活性化を通して～

１　主題設定の理由

学習指導要領では「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、社会と連携・協働しながら、子供たちに必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示されている。この理念に基づき、各学校においては、「開かれた学校」から地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」への転換に取り組んでいる。

内原中学校区では、「地域とともにある学校」づくりの推進に向けて、各学校運営協議会と学校、地域との連携を強化し、地域の力を学校教育に生かすとともに、学校と地域が協働で子供たちを育むための体制づくりや取組を進めていきたいと考え、本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

(1)　地域の力を学校教育に生かし地域とともに子供たちを育てる活動の実践について、合同学校運営協議会を通して共有し、成果や課題を各学校の取組に生かす。

(2)　持続可能な地域との連携や協働の在り方についての情報交換を通して、継続を図る。

３　具体的な取組内容

（資料１）

(1)　各学校の実践の成果と課題を生かした取組

ア　地域への愛着を育む取組と「鯉淵小学校応援団」の継続

①　「鯉淵小学校応援団」の継続

・地域との協働活動が児童にとって地域への愛着につながる活動にすることを今年度の課題とし、米づくり協力隊への感謝についてより実感が伴うことを目指して改善した。今年は収穫した米を家庭で調理する等の活動を全児童がレポートにまとめて鯉淵っ子まつり「米作り感謝の会」で掲示し発表した（**資料１**）。
これまでにはない米づくりへの児童一人一人の思いが表れ、協力隊の方へ伝えることができた。

・自治会の回覧等でのＰＲ活動を強化した結果、自治会での「鯉淵小学校応援団」の登録があり、宿自治会による校庭の除草作業の協力が得られた（**資料２**）。

②　地域の方がより学校への親しみをもてるような機会の拡充

・地域住民と協働での全校防災教室を復活させ、行政、鯉淵地区住民の会や消防団と連携して防災教室を実施した。（**資料３**）
・１年生活科「昔遊び」の活動で、特別養護老人ホーム「もみじ館」のお年寄りの方と交流した。今後も定期的な交流を計画する。（**資料４**）
・第２回学校運営協議会にて、「もっと気軽に地域の方が来校できるように」という話合いから、鯉淵地区で活動する団体等の鯉淵っ子まつりへの参加を検討することになった。

自治会の除草作業（資料２）

地域連携防災教室（資料３）

老人ホームとの交流（資料４）

イ　「内原っ子お助け隊」の立ち上げと運用

より効果的で充実した教育活動を行うため、保護者に教育活動支援ボランティアを呼びかけ、「内原っ子お助け隊」として教育活動を協働して行う取組を行った。

また９月に実施した除草作業では、内原市民センターと連携して実施したことで、多くの地域の方々に参加していただいた。

ミシン学習の補助

除草作業

もちの木まつりボランティア

ウ　妻里小学校区に関係のある地域人材の活用

①　「妻里安全見守り隊」による下校見守りの継続

毎週月曜日は、全校一斉下校日として地域の方が下校時に来校し、それぞれの地区ごとに、通学路を一緒に歩く下校見守りを行っている。その際に、学校と地域が不審者の情報や児童の様子を共有することで、児童の安心、安全につなげている。

妻里安全見守り隊との下校

②　教育活動支援ボランティアの立ち上げと運用

保護者や地域の方に向け、教育活動支援ボランティアの募集を行い、登録を呼びかけた。「できるときに　できる人が　できる範囲で」を合言葉に、米作り支援や調理実習の補助、お琴体験授業等、保護者や地域の方と協働で、より効果的で

充実した教育活動を展開することができた。

米づくり体験活動支援

授業支援（お琴体験）

エ　内原中学校地域人材による指導・支援

内原中学校では、生徒が、職業に関する学習や体験学習を通して、働くことの喜びや責任、協力することの大切さを学ぶとともに、自己を見つめ、これからの生き方を考えることを目的としてキャリア教育に取り組んでいる。

第１学年の技術科では、「内原建築組合」の方々を講師に迎え、子供たちの木材加工における技術向上を目的とした授業を実施した。技術指導を通して、自分の技術に誇りをもって働いている方々がいることを肌で感じることができた。

第２学年では、今年度、介護、林業及び建設業の体験学習を行った。建設業体験では、建設業への親近感を深め、魅力を伝えることで将来の職業選択の一つとするため、「茨城県魅力ある建設事業推進連絡会議（ＣＣＩ茨城）」の協力を得て、ログハウスの基礎工事や木材組立工事、測量体験、ドローン操縦、重機体験を楽しみながら行った。12 月 18 日には、ログハウスの引き渡し式を行い、完成を盛大に祝った。

１学年木工教室

２学年建設業体験

(2)　地域とともに子供たちを育てる体制づくりと実践

鯉淵小、妻里小の子供会が休会となり、地域の子供たちが集う機会がなくなってしまうことを課題と捉え、内原地区青少年育成会や各地区の自治会等と連携し、地域の力で子供たちを育てる取組を実施している。

ア　「陶芸教室」

内原地区青少年育成会が主催し、陶芸教室を実施した。内原市民センターには、57 名の児童とその保護者が集まった。学年をこえて友達や親子でコミュニケーションをとりながら活動する姿が見られ、地域コミュニティの貴重な時間を過ごすことができた。

イ　「妻里子ども広場」

住みよい妻里をつくる会によって、以前は子供会で行っていた行事等を、自治会とＰＴＡが連携して実施している。今年度は、入学を祝う会、収穫祭(餅つき)、クリスマス会、卒業を祝う会等を開催した。毎回、定員を上回るほどの人気で、子供会に代わる健全な仲間づくりの場となっている。

収穫祭

ウ　作品展示会での地域との交流

「ギャラリーみんなのつまさと」、「鯉淵ふれあい展示会」で、各市民センターに地域のサークル等の作品と各学校の子供たちの作品を展示し、地域住民の参観を通して交流している。開催準備から片付け、反省会まで、複数回の打合せや協働作業を行うことで、地域とＰＴＡ、学校が一体となった取組として定着している。

ふれあい展示会

エ　内原ふれあいまつり

まつりを通してふれあいを深め、内原地区の地域コミュニティの調和を目的とした「内原ふれあいまつり」が今年も開催された。地域団体による出店や体験活動、各小中学校の吹奏楽部・金管バンドによる演奏発表、模擬上棟式とまき餅など魅力的なイベントが盛大に行われ、来場者の笑顔がたくさん見られた。演奏発表やボランティア活動で参加した児童生徒は、地域との交流を深めるとともに、地域の方から活動について称賛されることで、自己肯定感を高めることができた。

(3)　合同学校運営協議会代表者会議

ア　第１回　令和６年７月 18 日（木）

イ　第２回　令和７年３月７日（金）

・合同学校運営協議会代表者会議を通して、各校の取組や課題を情報交換し、協議した。地域との連携、人材（資源）確保などについて内原中学校区全体で共有、活用していく。

４　成果（進捗状況と今後の課題）

・合同学校運営協議会では、各学校が抱える課題と課題解決の手がかりとなる情報等を共有することができた。また、通学路や地域の危険箇所への対応など子供たちの安全確保について、様々な視点で協議することができた。今後も、様々な課題を共有し、改善・解決のために熟議を図りたい。

・各学校の学校運営協議会等では、既存の地域学校連携・協働活動の活性化、および新たな取組について協議した。学校の教育活動のニーズと地域人材の活用について調整を図り、持続可能な活動となるよう推進する。

・地域交流が徐々にコロナ禍前のように戻り、子供たちは保護者や地域の方々と関わる交流機会が増え、地域の一員としての意識を高めたり、地域への愛着の心を膨らませたりすることができた。活動実施後、子供たちは地域の方々へ感謝の気持ちを表すなどして、活動を振り返ることができた。

・地域学校協働活動は、コーディネーターとなる市民センターや住民の会等との連携が重要であり、連絡や打合せ、メールを活用した情報共有によって進められたことが成果につながったと考える。今後も各学校の取組等について、情報を共有し、活動の充実を図りたい。

・地域子供会の休会による影響や様々な地域課題はあるが、自治会、青少年育成会等の地域団体は、子供たちを守り、育成する意識をもって子供たちをあたたかく支援するなど関わりを継続している。今後も学校運営協議会を通して、地域とのつながりを広げ、深めて、子供たちを育む「地域とともにある学校」でありたい。